

日本車椅子シーティング 財団 財団通信 2023 新春号

2023年1月20日 第11号

一般財団法人日本車椅子シーティング財団、〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町1-10-1 カクタビル2F
http://www.wheelchair-seating.org/ e-mail:info@wheelchair-seating.org

INDEX

1 シーティングの五戒

加島 守

2 財団主催

セミナーのご案内

3 財団理事の紹介

4 編集後記 事務局

高齢者施設での導入が期待されるモジュラー型車椅子



ラックヘルスケア



日進医療器

1. シーティングの五戒 日本車椅子シーティング財団副代表 加島 守 (高齢者生活福祉研究所)

皆様、明けましておめでとうございます。

昨年4月に副代表に就任させていただいた加島守です。昨年はコロナ禍でもありましたが、リモートセミナーを開催することができ、皆様にシーティングにおける発信をすることができてホッとしております。

昔を思い起こしてみれば、介護保険制度施行以降、車椅子に乗っている人を街中で見かけることが多くなりました。しかし、どれだけシーティングに対して普及ということができたのでしょうか。

私は平成5年から在宅高齢者に対する福祉用具と住宅改修の普及を行ってきました。当初は車椅子に乗っている利用者(高齢者)を街中で見かけることもなく、業務委託を受けた市内に車椅子に乗っている利用者をどれだけ見かけることができるか、という台数の普及を行うようなものでした。介護保険制度が施行されてからは確かに街中で車椅子に乗っている高齢者の方を多く見かけるようになりましたが、ほとんどの方々がずっこけた姿勢であったり、見るからに体に合っていない車椅子に乗らされている?状態でした。

私自身6年前に脊柱管狭窄症により1年間車椅子生活をしましたが、スウェーデン製の車椅子とエアタイプのクッション、シート幅は身体に合わせて36cm幅、車軸はやや前方、駆動輪径は自宅マンションの出入り口にある7cmの段差昇降をしやすいよう24インチのものを介護保険の例外給付を利用しレンタルしていました。現在そのように身体と使用環境に合わせて利用している高齢者の方はどのぐらいいるのでしょうか。

今後シーティングが、そして財団が発展するために「シーティングの五戒」をご紹介させていただき、シーティングの普及に努めさせていただきたいと思っております。

2. 財団主催セミナー

QRコード



こちらから申し込みできます

開催概要 2月25日 土曜日

受付: 12:30~

セミナー: 13:00~16:00

司会: 財団評議員長 高木憲司

- ① 医療機関のシーティングの展開 診療報酬のシーティングとは

財団代表理事

作業療法士 木之瀬隆

- ② 横浜市立脳卒中・神経脊髄センターのシーティングと課題 理学療法士 児玉真紀

- ③ リハビリテーション天草病院のシーティングと課題 理学療法士 阿部高家

参加費: 資料代 賛助会員(法人会員・個人会員) 無料、非会員 3000円

*非会員の方は、これを機会に入会(年会費3000円)頂くと参加費無料になります。

申し込み方法: QRコードから申込まないでください。セミナーチラシ裏面の申込書に記入の上メール添付で送信願います。

定員: 会場 20名、Zoom 80名 定員になり次第、締め切らせていただきます。

【シーティングの五戒】

一戒 本当は車いすに乗りたくありません

私は歩くことができなくなることがすごく寂しいです。「じゃあ車椅子に乗って出かけましょう。」と人はみな簡単に言います。でも本当は歩きたいのです。車椅子に乗っている姿は・・・友達に見られたくありません。もし、私が乗りたいと思うような車椅子があったら教えてください。人に見られて自慢できるような車椅子があったら試してみるかもしれません。

二戒 教えてください

こんなにずっこけて座っているのはわざとではありません。お尻が痛いから座り直そうとしても前にずっこけることしかできないのです。こんな姿勢で座っている私を見て「なんでこんなにずっこけちゃうの。」とよく言われます。わたしが悪いのでしょうか。きちんと座り直しができない私が悪いのでしょうか。だれか教えてください。わたしが悪いのでしたらどうしたらよいのでしょうか。教えてください。

三戒 本当は気付いているのではないですか

私が座っている車椅子の座り心地。おしりは痛いし、身体は曲がるし、背中を押されて腰を伸ばしにくいし、ご飯を食べればむせるし・・・きちんと座れないのは私だけでしょうか?いえ、車椅子に座っているひと、みんな同じような姿勢で座っています。みんな丸くなって、腰を伸ばせずに、顎を突き出して、ひじ掛けに肘をのせにくくて・・・足の長さが右と左で違うような座り方をして・・・でも、みんながそのような姿勢をしているということは・・・本当は私たちではなくて、何が悪いのか、気付いているのではないですか。

四戒 困っているのは私自身です

身体がずっこけたり、車椅子から落ちそうになったりすると、みんな慌てて直してくれます。とてもありがたいです。でも、他に仕事があるのでしょ。優しく声をかけてくれますが、大変そうにしているのがわかります。他の仕事をしたいのに、私の姿勢を直してくれる。ニコニコして介助してくれていますが、困っているような顔もしています。

だから、姿勢を直してもらおうと声をかけたくても、忙しそうにしていると、声をかけにくくなってしまいます。大変そうに介助しているのがわかるのです。でも、実は、困っているのは、お願いしている私自身なのです。

五戒 わかってくれると嬉しいです

私が、姿勢が崩れてごそごそしていると、「もっと合っている車椅子に替えましょうか。」と、声をかけてくれたり、時間をかけて、手や足を動かして、私の状態を見てくれたり、そしていろいろな場所の寸法を測ったり、車椅子をいじってくれる。「車椅子の調整が終わりました。こちらの車椅子に乗ってみてください。」と呼ばれてその車

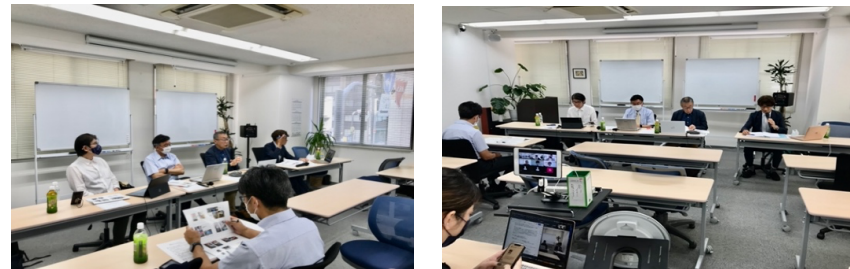
椅子に乗ってみると、身体がまっすぐ！漕ぎやすい！しばらく載っていても身体が崩れない！私のことを、合っている車椅子のことを、わかってくれと、本当に嬉しいです。1台の車椅子で残り少ない時間を、大切に過ごすことができることをわかってくれと嬉しいです。

2. 医療機関のシーティングセミナー | 開催決定！

「医療機関のシーティングの取り組みと課題を考える」

2017年に厚生労働省保険局医療課から公表された診療報酬の疑義解釈資料より、疾患別リハビリテーション料に「シーティング」が入り算定が可能になった。医療機関のリハビリテーションでは、重度障害のある人、実用性歩行能力の低い人も在宅へ帰すことが求められておりシーティングの対応が重要である。シーティングの評価からの対応は一職種だけでは難しいため、シーティング・チームを作る必要がある。今回、医療機関におけるリハビリテーション職種として理学療法士、作業療法士、などによる「医療機関のシーティングの取り組みと課題を考える」セミナーを開催いたします。

見出しの開催概要をご確認の上、対面参加もしくはオンライン参加が可能なハイブリッド開催となっておりますので、お誘い合わせの上振るってご参加ください。



2022年5月28日財団主催セミナーの会場風景

3. 財団理事のご紹介

3. 財団理事の紹介

芝崎泰造理事



当財団の理事を務めさせて頂いている芝崎泰造（しばさきたいぞう）と申します。現職は車椅子メーカーである株式会社ミキの親会社にあたる三貴ホールディングス株式会社のFORCE事業部という部署で商品企画や販売企画、たまに営業といった仕事をしています。私は20歳の時に交通事故で脊髄損傷となり、以来40年に渡り車椅子生活を続けています。その過程で車椅子の販売・修理に携わり、様々な障害者やその家族の方達と関わりを持ち、一緒にスポーツを楽しんだり、共に学んできたことが、現在のモノづくりの根幹となっています。ユーザー目線によるユーザーのためのモノづくりを今後も続けていくことが、自らのハンディキャップを価値に変えることだと信じて仕事をしています。

車椅子や福祉機器を提供する側は、常に新しい知識を求め、製品やサービスに反映させる努力を続けていて、毎年すばらしい製品が市

場にリリースされているのですが、その恩恵を享受する側の使用者側は、学びの機会が非常に少なく、購入する車椅子に関しては提供者任せ、モノ任せになっているように思われます。使用者側も、もっと自分の身体のことに関心を持ち、自身に合った良姿勢で生活を送ることの重要性に気づいて欲しい、その為の学びの機会を提供したいという想いを常から感じていたので、シーティング財団の理事をお引き受けしました。

一昨年から脊髄損傷の方々に向けた車椅子シーティングセミナーを実施させて頂きまして、今年も2月に京都で開催を予定しています。車椅子のバックサポートシートの張り調整くらいは、自分で出来るようになるような基本的な内容です。使用者側が車椅子シーティングに興味を持つことで、提供者側もより深い知識が要求されることになり、シナジー効果で国内のシーティング熱が益々高まることを願っています。

寺光鉄雄理事

一般社団法人全国福祉用具

人材育成協会代表理事

福祉用具プランナー研究

ネットワーク理事



最新の電動車椅子の例



松永製作所

理事に就任いたしました寺光鉄雄（てらみつてつお）です。公益財団法人テクノエイド協会時代は、特に福祉用具関係者の教育システムの構築（福祉用具プランナー、同管理指導者、可搬型階段昇降機安全指導員、リフトリーダー等々）と組織化（福祉用具プランナー研究ネットワーク、可搬型階段昇降機安全推進連絡会、全国福祉用具相談・研修機関協議会）をすすめてきました。車椅子姿勢保持関連では、平成25年に関係5団体を集め「高齢者のための車椅子シーティング」のシステム化、さらにそれを発展させ令和元年には、現在の「車椅子姿勢保持基礎講習」のシステム構築を行いました。

現在の協会では、3つのミッション①可搬型階段昇降機安全指導員の育成、②福祉避難用具の普及啓発、③福祉施設への福祉用具導入支援の活動を行っています。

当財団では、厚生労働省老健事業で開発した「**高齢者の適切なケアとシーティングに関する手引き**」を私共の協会事業③とコラボを図りながら、本研修の実施に寄与したいと考えております。どうぞよろしくお願い致します。

【編集後記】

あけましておめでとうございます。戦争・元総理暗殺・物価高など本当に様々なことがこれでもかと起こった2022年が終わり、今年は少し落ち着いた年になればと心より祈念しております。少しでも良くしていけるのは、私たち一人ひとりの意志にかかっているのではないのでしょうか。経済を成長軌道に回復させ、国民が少しでも豊かさを実感できる国へ、財団も頑張ります。 事務局 川畑